

平成29年10月23日

6年生の「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします

中道北小学校

4月18日に、「全国学力学習状況調査」が行われました。毎年、全国の6年生の国語と算数の学力を把握するために実施し、その結果を分析することで、全県やその校の課題を明らかにすることにより、今後の授業改善に役立てることを目的としています。

以下に、本校の6年生の児童の結果をもとに、分析し課題を把握しました。今後本校の児童の学力をさらに伸ばすために必要だと思われる内容をまとめましたので、ご覧いただき家庭学習等でのご参考にしてください。

	国語A（主として知識）	国語B（主として活用）
本校の状況	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は県の平均（74）、全国の平均（74.8）をやや上回り、正答数の分布は15問中12問以上正解者が全体の6割以上を占めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は県の平均（56）、全国の平均（57.5）をやや上回っている。 正答数分布は中上位と下位の二極化の傾向が見られる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 他人の意見を聞き（読み）その意図について理解することに課題があった。 手紙の書き方の決まり（後付け）についての知識に課題があった。 古文における言葉の響きやリズムの特徴を捉えることに課題があった。 漢字の書き（参加対象）（希望） 	<ul style="list-style-type: none"> 書かれている内容を読み取り、要約して書き表すことに課題があった。 目的や意図に応じて、資料から引用して文を書き表すことに課題があった。 人の発言の意図を理解することに課題があった。 解答に長い記述を要求されると、無解答になる者がいた。
今後の取組 ・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ◇日頃の授業等においても友だちの意見には、どんな意図があるのかを考えながら、しっかり聞くような習慣を付ける必要がある。 ◇手紙の書き方については、あまり経験がないが、復習をして知識として身に付けておく必要がある。 ◇古文の言葉の響きやリズムについては、音読や暗唱に親しませる機会を多くしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇文章を読み、書かれている内容のだいたいを読み取り、自分の言葉で表現する活動を繰り返す必要がある。 ◇目的や意図に応じて、必要な条件を意識した文章表現をさせる活動を多く取り入れる必要がある。 ◇人の発言を最後までよく聞きどんなことを言おうとしているのか考える場面を多く取り入れていく。 ◇書くことに対する抵抗を取り除くよ

	◇漢字の学習は熟語として捉えさせ、熟語として練習する。また自己の表現活動でも言葉として熟語が使いこなせるようにしていく。	うにするために、授業の中に効果的に書かせる場面を取り入れていく必要がある。
	算 数 A (主として知識)	算 数 B (主として活用)
本校の状況	・平均正答率は県の平均 (77), 全国の平均 (78.6) をやや下回り, 正答数の分布は, ほぼ県・全国と同様である。	・平均正答率は, 県の平均 (43), 全国の平均 (45.9) を下回っており, 正答数の分布では, 県・全国と比較し, 中央値が 1 ポイント下方にある。
課題	<p>◆<u>小数の乗法</u>の問題で, <u>数量の関係を数直線上に表すこと</u>に課題があった。</p> <p>◆<u>三位数×二位数の乗法</u>において正確な計算ができないという課題があった。</p> <p>◆<u>整数÷整数の答えを分数で表すこと</u>に課題があった。</p> <p>◆<u>高さが等しい平行四辺形と三角形では面積が半分になること</u>の理解に課題があった。</p> <p>◆<u>円に内接する正多角形によって分けられる中心角は等分になっていること</u>の理解に課題があった。</p> <p>◆<u>展開図で表された立方体の面と面の関係を捉えること</u>に課題があった。</p>	<p>◆問題が要求している<u>条件を踏まえた立式</u>をすることに課題があった。</p> <p>◆4つの数値の<u>平均を求める式を立てる</u>ことに課題があった。</p> <p>◆<u>平均を求める工夫</u>として, はしたの数に着目して計算することに課題があった。</p> <p>◆複数の条件の<u>統計を一つにまとめた表を読み取る</u>ことに課題があった。</p> <p>◆割合の問題で, <u>基準量と比較量の関係を表した図を読み取る</u>ことに課題があった。</p> <p>◆割合の問題で, 他のものに置き換えて考えた場合の<u>その判断の基準を記述で説明</u>することに課題があった。</p>
今後の取組 ・改善点	<p>◇文章問題等で数量関係を捉える際, 思考の段階で, 数直線に表して考えることを習慣化する必要がある。</p> <p>◇小数や分数も含めた基本的な四則計算は反復学習において計算力を高めていく必要がある。</p> <p>◇多角形に関して, 中心角や対角線の数, 角の大きさ等の特徴を改めてまとめる活動を通して多角形の特徴を理解する必要がある。</p>	<p>◇問題文をよく読んで, 要求されている条件を理解してから取り組むことを習慣化する必要がある。</p> <p>◇問題を解くときの工夫について, 個々が様々な考え方で試したり, それを友だちと共有したりする活動を取り入れる必要がある。</p> <p>◇調べたことを表やグラフにまとめる活動を通して, 表, グラフに親しんだり, 良さを理解したりする活動を工夫</p>

◇図形の学習において、辺と辺、面と面の関係など、空間の認識を高められるような学習の工夫が必要である。

する必要がある。

◇割合の問題においては、基準量と比較量の関係を数直線に表す活動を取り入れ、2つの量の関係を視覚的に捉えたり、思考することに役立てたりしていく。

「児童質問紙」から把握できる課題の概要と改善の方向

（「児童質問紙」とは、子どもたちの生活習慣や学習に対する意識などを把握するために、学力調査と同時に行った全92問のアンケートです。）

【県・全国と比較して割合が高い主なもの】

- 「毎日同じくらいの時間に起きている」
- 「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意」と思っている
- 「1日あたり2時間以上テレビゲーム等をする」割合が低い
- 「携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人との約束を守っている」割合が高い
- 「家の人と将来のことについて話す」
- 「学級のみならず何かをやり遂げてうれしかったことがある」
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」
- 「外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知りたいと思う」
- 「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思う」
- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」

【県・全国と比較して割合が低く課題と捉えられるものと改善の方向】

- 「普段、家庭学習を1日あたり、1時間以上する」割合が低い
家庭学習に関しては、1日あたり1時間以上している割合は、県では約63%、全国では約64%であるのに対し、本校では42%となっている。宿題以外の部分で自主学習ノートを活用した家庭学習に取り組ませているが、全員に定着というところまでは至っていない。今後も引き続き自主学習のやり方も含め取り組みを継続していく。
- 「普段、1日あたり30分以上読書をする」割合が低い
普段の読書時間に着いて質問しているが、30分以上読書するという割合を見ると、県では38%、全国は37%に対し、本校では26%となっている。家庭学習とも合わせ、帰宅後の生活時間の使い方、テレビ・ゲームなどから離れ落ち着いて机に向かう時間の確保等、よい習慣を定着させるための取り組みが必要である。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは諦めずにいろいろな方法を考える」割合がやや低い
学校として、普段の授業で子どもたちが課題解決のために考える場面を設定することも重要であるが、自主学習などでも単に書き写す学習ばかりでなく自ら設定した課題を解決していくような学習も必要である。

●「学力テストの算数の問題を解く時間が短いと感じた」児童の割合が高い

算数に関しては「主体的・対話的で深い学び」という授業のあり方が今後重要になってくる。学校としても、1時間の授業の中に見通し(めあて)や振り返りがある授業、子どもたちが主体的に考える場面や友だちと考えを交流、共有する場面がある授業、そういう授業づくりに力を注いでいくことで児童の学力の向上につながっていくと考える。

先に挙げた、県・全国の平均より上回っている項目から中道北小の子どもたちの姿が浮き彫りになってくる。比較的決まりよい生活習慣の中で、友だちと協力したり地域との関わりに価値を見いだしたり、人のために役に立ちたいと考え、グローバルな視点で自分の将来を見据えたりすることもできている。その一方で

●「自分にはよいところがあると思っている」割合がやや低い、という実態もある。

様々な課題から改善策を考え、児童が主体的に学ぶ喜びを感じられるように導いていくことが学校や家庭に課せられた課題である。自分自身が高まり、周囲から認められることが「自己有用感」につながり、それが将来に向けての高い目標の設定や夢の実現につながって行くと考え。

以上のような課題とそれに対する改善点を示しました。学校としてはこれらの課題を踏まえ、日々の授業での授業改善に取り組んでまいります。

結果は本年度の6学年児童のものですが、同じ地域、同じ学校で過ごす他学年の児童にも多少の差はありますが、同様の傾向があると考えられます。各ご家庭におかれましても家庭学習の中で充実させる部分、実生活の中で考えたり、身に付けさせたりできること(例えば、テレビ・新聞などから得た情報について自分の考えや理由を言わせるなど、算数では買い物の際に決められた予算の中で買い物をさせたり、得な割引の商品を選ばせたり、また移動の距離と時間との関係に目を向けさせたりするなど)につつまして、お子様との関わりを持っていただき、学校と家庭が連携して子どもたちに基礎基本となる事柄やそれらを活用して自ら考えて課題を解決していく力をつけて参りたいと考えております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。